

和田 拓治郎

Takujiro Wada

彫刻

助手

- 1998 二科展 特選 (以後毎年出品)
2000 中日青年彫塑展 (国立国父纪念馆/台湾)
2000 音の彫刻コンクール 奨励賞 (静岡)
2001 力学おもちゃコンテスト アーティストイック賞 (東京)
2002 二科展 二科賞
「倉橋アートドキュメント2002 -臨界域-」 (広島県倉橋町)
「ART COMMUNITY "TOMO"」 (広島)
第36回現代美術選抜展 (北海道)
2003 表象都市 metamorphosis 広島 -芸術実験展示プロジェクト 2003-
東広島市現代美術プログラム 2003 白市 DNA
2004 「金以上、愛未満」展 (広島紙屋町シャレオ)
「音戸アートスケープ Genius Loci: 2004」展 (広島県音戸町)
北村西望生誕地現代彫刻プロジェクト
「interdependence. -Cのかたち-」 (長崎県南有馬町)
2003年4月着任

風刺作品の存在意義

近年の研究として、野外展示における風刺作品の役割を主題に表現を続けている。

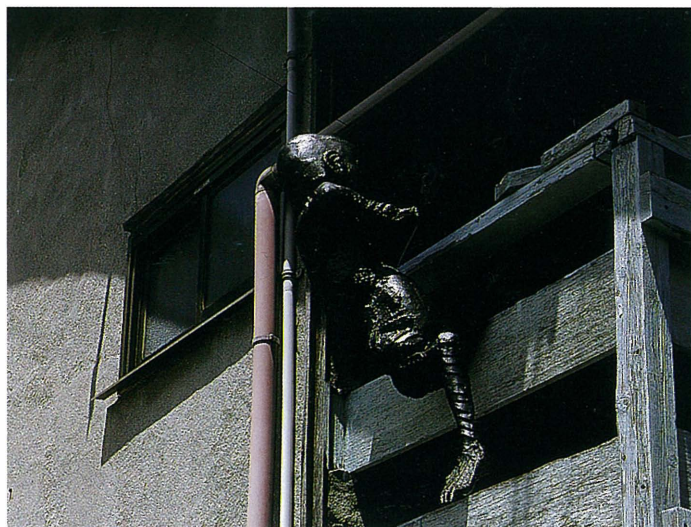
2点の作品を参考に挙げたが、どちらも環境の改善をあえて当て擦りから

ねらう、いわば極端に間接的な解決策の提案である。

例えば、庭から公道に大きく伸びた松を、隣の民家の2階からワイヤーで引っ張っている作品。放っておくと切られてしまう松を作品として取り込み、門にかぶるよう矯正することで、展覧会期中は保護される。

また、神社の古い鳥居に、それを壊すべきか迷う餓鬼像を設置した作品も同じく、会期中は保護され、作品とともにその存在を再確認する。

これらの例のように、忘れかけた価値あるものに、皮肉を含意した滑稽を提示することで、間接的に改善策を促す役割こそ、風刺作品の存在意義であると考えられる。



《私松》
2004
鉄、ワイヤー
W500 × D50 × H100cm



《神社落とし》
2004
鉄、セメント
W60 × D60 × H160cm